

日田商工会議所 キャッシュレス委員会 議事録

1. 日 時 令和8年4月23日(木) 11:00～

2. 場 所 日田商工会館 4階 大会議室

3. 出席者

(会 頭) 瀬戸 亨一郎

(担当副会頭) 谷口 知幸

(委 員 長) 宮野 大樹

(副 委 員 長) 東 真吾

(委 員) 梶原 智敏、小野 智宏、大塚 智、中山 英明、中川 和也、平川 好美

(事 務 局) 樋口 恒成、大石 昭典、春口 国博、西馬 優花、松尾 真理

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

- ・宮野委員長より開会の挨拶があり、議事が進行された。

2) 議題

○ (1) 事業について

① ひた pay について

・事務局より、4月20日時点でのひた pay 利用状況(消費7億円突破、登録者約1万5,000人、加盟店762店舗)が報告された。

・一部のコンビニエンスストアにおいて、以前のひた pay 事業にて対象外商品(タバコ等)の誤決済が発生したことを理由に、オーナーの意向で電子決済の取扱を自粛している現状が共有された。

・株式会社まちのわさんの資料に基づき、スマートフォンを持たない層への対応策として、「QRコードカード」を活用した電子商品券の導入事例が紹介された。

・カード導入時には、店舗側でQRコードを読み取る端末(スマートフォン等)の準備や対応が必要となるため、端末の貸出等を含めた対応策の検討が必要であることが共有された。

② チーム分けについて

・今後の活動を、実務事業者を中心とした「先進調査チーム」と、情報収集を担う「市内調査チーム」の2チーム体制で推進する方針が確認された。

・各種調査や情報共有の面において、金融機関にも協力を仰ぐ方針が承認された。

③ 大村市視察について

・7月24日に、行政・商工会議所合同で長崎県大村市へ視察を行う計画が承認された。

・大村市の「中小企業振興基本条例」に基づく官民連携の取り組みや、地域通貨「ゆでぴ」の定着事例を学ぶことが目的であり、大村市長にも参加いただく予定であることが共有された。

・商工会議所が主導し、日田市の現状や課題を明確にした上で、大村市と有意義な意見交換を行う方針が確認された。

○ (2) その他

・キャッシュレス決済を導入していない店舗の実態調査(手数料の課題や未導入の理由など)を

行い、解決策や導入メリットを提示していく必要性が確認された。

- ・地域通貨の普及と並行して、インバウンドを含む国内外の旅行者に対するキャッシュレス推進の方向性についても検討していくべきとの意見が出された。

3) 閉会（まとめ・今後の動向）

- ・本委員会では、「ひた pay」の利用が順調に拡大している現状と、スマートフォン非保持者への対応（QR コードカードの活用）や、未導入店舗の課題といった今後の対策について協議された。

- ・今後は「先進調査チーム」と「市内調査チーム」の 2 チーム体制に移行し、金融機関とも連携しながら実態調査や導入メリットの提示を具体的に進めていく方針が確認された。

- ・7 月 24 日に予定されている長崎県大村市への合同視察を通じて、官民連携の仕組みや地域通貨の成功事例を深く学び、日田市におけるキャッシュレス推進の明確なゴール設定と支援基盤の構築に繋げていくことが全体の方針としてまとめられた。

（記録終了）